白堊通信

2020.12.18　No.40

HAKUA TSŪSHIN

岩手県立盛岡第一高等学校白堊同窓会事務局

140th anniversary MORIOKA DAIICHI

岩手県立盛岡第一高等学校

創立140周年

【特集】創立140周年記念シンポジウム

テーマ

世界が変わる問われる人間力

～次代につなぐ理想の船路～

創立140周年記念式典
令和2年10月10日(土) 盛岡市民文化ホール

〒020-8515　岩手県盛岡市上田 3-2-1
TEL・FAX (019)624-0765(白堊記念館)
mail : info@hakua1880.jp
TEL (019)623-4491(学校)
http://www2.iwate-ed.jp/mo1-h/(学校)
https://hakua-dousoukai.jp/(同窓会)

シンポジウム

問われる人間力 ～次代につなぐ理想の船路～

橋田　元（はしだ・げん）

1963年花巻市生まれ。94年東北大大学院理学研究科地球物理学専攻博士課程後期修了。95年国立極地研究所採用。2019年同研究所南極観測センター教授・副センター長。第62次隊長兼夏隊長として20年11月出発予定。

石木　愛子（いしき・あいこ）

1984年盛岡市生まれ。2009年弘前大医学部卒、岩手県立中央病院。県立高田病院勤務時に東日本大震災被災地医療を経験。東北大大学院医科学研究科医科学専攻博士課程修了。19年同大学病院加齢・老年病科院内講師。

創立140周年記念式典は、新型コロナウイルス感染症予防対策徹底のため、来場者を会場定員の半分以下に絞り（在校生は2,3年生のみ。1年生は学校でリモート参加。）、時間も短縮して、10月10日に盛岡市民文化ホールにおいて実施しました。長年にわたり母校のためにご尽力いただいた方々に、藤尾会長から感謝状を贈呈し、校歌斉唱で締めくくりました。規模は大幅に縮小されましたが、伝統の重みを感じさせる厳かな式典となりました。

その後、行われた各界で活躍する同窓生による記念シンポジウムの内容を、岩手日報社のご協力により、掲載記事（2020年10月25日付）の抜粋でまとめました。

◎感謝状贈呈者

歴代校長	千葉　研二　様（第35代校長）
	故高橋　和雄　様（第36代校長）
	高橋　廣至　様（第37代校長）
	平賀　信二　様（第38代校長）
	川上　圭一　様（第39代校長）
歴代同窓会長	安達　孝一　様（第12代同窓会長）
	谷村　邦久　様（第13代同窓会長）
歴代PTA会長・振興会長	
	工藤　重信　様（第25代PTA会長・第10代振興会長）
	松尾　正弘　様（第26代PTA会長、第11代振興会長）
	内舘　　茂　様（第27代PTA会長、第12代振興会長）
	渡辺　正和　様（第28代PTA会長、第13代振興会長）

石木愛子さん
やるべきこと続けて

川村　在学当時のエピソード、影響を受けた人や本などをお聞かせください。

藤田さん　会社生活では人事畑が長く多くの人と話をしますが、盛岡一高のことを知らない人はいません。素晴らしいことです。授業で忘れられないのは、中国の毛沢東主席が死去した時の社会の先生の話。文化大革命の話をとうとうとしていました。授業はほとんど聞いていませんでしたが、これだけは40年近く経っても覚えています。検察官になりたいと思ったこともありますが、「官僚たちの夏」（城山三郎）を読んで官僚になろうと一生懸命勉強しました。

橋田さん　野球部の練習に入学式前から参加していました。先輩や同級生ら人間関係が濃い世界でしたが、その時にしかできない貴重な経験でした。記憶として残っているのは、普通の休み時間などの同級生との何気ない話です。文化祭や予餞会（よせんかい）、進路などを語ったのは大切な思い出です。自分の将来については常に不安しかなく、自分が一体どういう能力を持っているか分かりませんでした。科学雑誌「ニュートン」という本に影響を受けました。

石木さん　入学した時に挫折を経験しました。膨大な課題の量や応援歌を全部覚えるのを泣きながらやりました。成績順位もがくんと下がり、その後は淡々と勉強するようになりました。私たちはラッキーな世代かと思います。新校舎に通学し、修学旅行も始まっていました。海外派遣にも行きましたが、翌年は同時多発テロで中止でした。力を入れてやったことはこれといってありませんが、週刊誌や椋鳩十さんの伝記などを息抜きに読みました。

中村さん　卒業から40数年経っているので、はるかかなたの時代です。理数科に入りましたが「男クラ」でした。そのまま進級しましたのでクラスのつながりが強かったと思います。仮装行列や文化祭で仲間と一緒にやったことが一番の思い出となっています。理科の実験などグループで取り組みましたが、自分の考え方のためになった3年間になりました。毎年8月にクラスの交流会を開いてますが、人とのつながりが大きな財産だと思います。

川村　職業選択のきっかけや夢の実現のために具体的に取り組んだことはありますか。

橋田さん　私は漠然と地球に関わる仕事に興味がありましたが、研究者になるとは思っていませんでした。進学や進路選択の際に地球に関わることを選択していった結果、研究者になっていました。環境に関わるグローバルな仕事に就きたいと思いオーストラリアで学び、幸い今の研究所で職を得ました。普段の仕事は他国とのやりとりや会議など調整が中心です。気が付いてみると、昔やりたいと思っていたことができているのかもしれません。

石木さん　父が医師だった影響が大きいです。生物が好きで農学部や獣医学部を考えましたが、親のアドバイスに背中を押されました。震災当時から陸前高田市で数年間勤務しましたが、高齢者が多く、病気を治せたとしても寝たきりになる人も多かったです。そんな中、何のために生きるのか、ということを考えた時、今いる東北大病院の加齢・老年病科で働くことを選びました。震災がなければそんなことを考えることもなかったと思います。

中村さん　大学時代「地方の時代」が提唱されており、私も古里で頑張りたいと思い県庁へ入りました。影響を受けたのは元普代村長の和村幸得さんの言葉です。お会いしたことはありませんが、必要ないと言われていた15・5メー

橋田　元さん
自分に対して「挑戦」

【特集】　創立140周年記念

テーマ　世界が変わる

◆◇シンポジスト◇◆

中村一郎さん（昭和49年卒）
三陸鉄道株式会社代表取締役社長

藤田　潔さん（昭和53年卒）
一般社団法人三菱みらい育成財団常務理事

橋田　元さん（昭和57年卒）
国立極地研究所
南極観測センター教授・副センター長

石木愛子さん（平成15年卒）
東北大学病院加齢・老年病科院内講師

◇コーディネーター
岩手日報社常務取締役編集局長
川村公司（昭和59年卒）

藤田　潔（ふじた・きよし）
1960年奥州市（旧水沢市）生まれ。83年東京大経済学部卒、三菱商事入社。英国駐在、子会社ヒューマンリンク社長、三菱商事人事部長、総務部長、東北支社長を経て2019年4月三菱みらい育成財団常務理事。

中村　一郎（なかむら・いちろう）
1955年盛岡市生まれ。79年東京大法学部卒、岩手県入庁。沿岸広域振興局長、政策地域部長、復興局長などを経て、2016年6月三陸鉄道代表取締役社長。

中村一郎さん
つながりが一番の宝

トルの太田名部防潮堤を建設し、東日本大震災で力を発揮しました。「住民のためにと確信を持って始めたことは、最後までやり遂げなさい」と職員に伝えたと聞き、私もそういう気持ちを持ちたいと思っています。

藤田さん　大学では経済学部に所属し、当時はOB訪問で自分に合う企業を探すというのが就職活動でした。私は官僚になろうと思っていたので、旧通商産業省の先輩に話を聞きましたが、今で言うブラック企業のような働き方に違和感がありました。総合商社が手掛ける途上国のインフラプロジェクトの映像を見て、こんな仕事をやりたいと思い三菱商事に入りました。人材を採用する際に重要なポイントは「高い倫理観」「やり抜く力」「地あたまの良さ」です。

川村　在校生へメッセージをお願いします。

石木さん　最近SNSなどでは成功しているような人ばかりが目立ちます。私も何でもできる先輩や後輩にコンプレックスを感じることがありますが、一緒に働く看護師やヘルパーが、それぞれの場でベストを尽くしてくれるからこそ乗り越えられます。目立たなくても、自分のやるべきことを続けることが重要です。例え挫折しても、目の前にはやるべきことが必ずあります。自分が今何をやらなければいけないのかを常に大切にしてほしいです。

中村さん　大きく3点ありますが、まず1点目は目先の利益だけにとらわれず5年後、10年後を見据えた長期的視点、ミクロとマクロの両方の視点を持ってほしいです。2点目はリスク管理です。災害だけでなくSNSの世界でも、自分の身は自分で守ることを意識してほしいです。3点目は古里に戻り活躍する人が出てほしいです。外に出て分かる古里の良さもありますが、生まれ育った場所で活躍したいと思う人が出てくればありがたいです。

藤田さん　グローバルな人材育成については、英語や語学ができるかということよりも、つまりは、やるかやらないかです。漠然とでもいいので「夢」ではなく「志」を立ててほしいと思います。もう一つ、世の中で認められるキーワードは「信頼」です。同僚、上司、部下など周りの人から信じて頼られれば、世の中ではうまくやっていけます。「志」と「信頼」をキーワードに、漠然とでもいいので、こうなりたいというのを持ってもらいたいです。

橋田さん　一高生のあるべき姿とは、皆さんの姿そのものです。保護者や先輩は常に皆さんのことを大事に思ってサポートしています。何も恐れることはないので思い切り、自分がやりたいことをやってほしいと思います。変化の大きい時代ですが、どんな仕事を選択したとしても、地球環境はどんどん変化していきます。そんな中でも、自分に対してのチャレンジ、自分を発揮できるチャンスを、楽しめる皆さんでいてほしいと思います。

川村　一高生の中には、自分は評価されるような人間ではないのに、周りが過剰に評価することにより少しふさぎ込むような経験をしたことがあるかと思います。しかし、それが数年経つと皆さんが集うキーワードとしての「盛岡一高」になり、企業や仕事が違えど卒業生の強いつながりに変わっていきます。それが先輩方の築いた道であり、脈々と連なる大きな財産であると思います。本日はありがとうございました。

藤田　潔さん
「志」「信頼」が道開く

取材・岩手日報社広告事業局

御 挨 拶

白堊同窓会会長　**藤尾　善一**（昭和 45 年卒）

母校は本年、140周年を迎えることができました。誠に喜ばしく、同窓会としても心から祝意を表したいと存じます。

ご尽力賜りました代々の校長、そして諸先生はじめとする学校関係者並びに同窓生各位に対し深く感謝申し上げます。

明治13年の開学式で蒲池彌太郎初代校長が、創立されたばかりの当校を「冀北ノ野」（優れた人材を輩出する場）とし「文明ノ先駆ヲナシテ天下ノ大任ヲ負フモノ焉ゾ此ノ校ヨリ出ザルヲ知ラムヤ」と述べたその気概は今に至っており、新たな意味を帯びて、生徒諸君を突き動かすのではないでしょうか。

また、誇るべきは、多方面で活躍する数多の人材を輩出してきたことはもちろんのことですが、気風にあって生徒一人ひとりの多様な可能性を尊び、自ら学ぶというひたむきな姿勢を至上とすることであり、校風にあっては互いの多彩さを敬い共感し、生涯の畏友を得て共に成長することができる豊かさではないでしょうか。真の伝統とはと問われれば、それらのことを先ずは誇りたいと存じます。

かかる気概と伝統の下でこそ、母校はこれからも、志高く新しい時代に対応した社会を創造し得る人間を育成する場であり続けるものと確信しております。同窓会としても母校への支援を更に充実させてまいりたいと存じますので、同窓生各位の一層のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、この度の記念事業につきましては、新型コロナ感染症防止の観点から、記念式典・シンポジウムは、恐縮ながら、出席者を同窓会の各年次の代表、各地の同窓会、各職場やクラブの同窓会の各代表に限ることなどにより規模を縮小しての開催とし、当初予定していた祝賀会と白堊所蔵作品展は中止、応援旗祭は来年に延期させて頂きました。この時を楽しみにされていた同窓生の皆様には大変申し訳なく、心からお詫び申し上げます。

なお、他の記念事業としては、わが同窓会の豊富な人材を活かした「キャリア教育支援人材バンク」を創設することとしております。具体の支援内容としては、学校での講演、生徒会誌等への寄稿、メールなどでの相談、職場訪問等を想定しております。加えて「スーパーグローバルハイスクール」の後継事業としての生徒の海外派遣の支援にも取り組むこととしております。

最後になりますが、母校の更なる発展と同窓生各位のご健勝、ご活躍を祈念し挨拶とします。

「次なる時代に向けて」

校　長　**佐藤　有**（昭和 54 年卒）

同窓会の皆様方には日頃から本校の教育活動にご理解とご支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で一部見直して実施した創立140周年記念事業ですが、おかげさまで去る10月10日、盛岡市民文化ホールに於いて記念式典及び記念シンポジウムを盛会裏に終えることができました。式典の最後は、参加者全員で母校盛岡一高の校歌を歌い、万感を込めて締めくくりました。皆様の本校に寄せていただいております母校愛に改めて御礼申し上げます。

コロナ禍の今年は、白堊校の歴史の中でも特別な年となりました。3月の臨時休業に引き続き、新入生試練の行事である対面式や応援歌練習、そして開校記念日恒例の運動会も中止を余儀なくされました。インターハイ等も中止となり白堊健児の意気を天下に示す場が絶たれましたが、生徒諸君はこの現状にもめげず、文武両道の伝統をしっかり受け止め、様々な分野で果敢に挑戦し成果を挙げてきました。また、学習面では教室に無線LANやプロジェクター等のICT機器、エアコンの設置など教育環境の整備を進め、次なる時代に向けてのまなびの改革にも取り組んでいます。

一方、注目されているキャリア教育についてですが、昨年度までのSGH指定のレガシーを深化させて、今年度からは「地球規模の視野でものを考え、地域視点で行動するグローカル人材の育成」を目指して本校独自の探究プログラム（M探）に取り組んでいます。探究活動は、自己の在り方や生き方に関わる課題を、自ら発見し、多くの人とかかわりながら解決していく学びであり、140周年記念事業で創設された「キャリア教育支援人材バンク」も活用しながら展開したいと考えています。本校の生徒が、様々な分野で活躍している同窓生の皆様とオンライン等でつながり、共に議論を深めながら新しい価値や仕組みを提案する機会が到来することを期待しております。

変化の激しい時代のなか、本校でも時代を超えても価値ある白堊の歴史と伝統を継承しつつ、新たな文化や価値を創りながら興隆の途を拓いていくことが求められます。そして、10年後の創立150周年では、国内外の同窓の皆様とこの白堊城をリモートで結んで、更なる飛躍を期して交流を深めたいものです。今後とも皆様の特段のご支援、ご指導を賜りますようお願いいたします。

令和2年度白堊同窓会予算について

収入

（単位：円）

科　目	予算額	前年度予算額	増　減	摘　　要
繰越金	2,588,625	623,444	1,965,181	前年度一般会計より
会　費	10,000,000	10,000,000	0	令和2度分 5,000件
入会金	554,000	562,000	−8,000	3学年分(277名×200円×10ヶ月)
予納金	1,471,600	1,470,800	800	1学年分(286名×240円×10ヶ月) 2学年分(281名×240円×10ヶ月) 3学年分(277名×40円×10ヶ月)
繰入金	4,000,000	2,813,900	1,186,100	財産積立金から
雑収入	12,775	856	11,919	預金利息、宛名シール代
計	18,627,000	15,471,000	3,156,000	

支出

（単位：円）

科　目	予算額	前年度予算額	増　減	摘　　要
事務費	380,000	280,000	100,000	事務用品(封筒･トナー等含)、郵送代払込手数料、建物共済加入負担金、記念館施設使用光熱水量代
慶弔費	230,000	250,000	−20,000	各白堊会派遣祝金、会議参加費、弔電代
旅　費	250,000	300,000	−50,000	各白堊会派遣旅費
会議費	380,000	380,000	0	卒業年次代表者会議、役員会、各委員会会議
事業費	1,180,000	680,000	500,000	新入生入学記念品代、ウェブサイト管理運用費、応援旗祭、自彊寮顕彰事業費補助
総会関係費	300,000	600,000	−300,000	総会資料作成費等
キャリアアップ講演会費	150,000	150,000	0	
名簿作成費	150,000	1,260,000	−1,110,000	令和2年3月卒業生データ入力費
会報刊行費	3,200,000	3,200,000	0	40号印刷費、郵送費
事務局員費	1,500,000	1,487,000	13,000	事務局員給料、退職積立金、健康診断代
国際交流費	1,500,000	1,500,000	0	白堊振興会へ
財産積立繰入金	750,000	1,000,000	−250,000	夜間照明設備費軽減相当分
周年事業費特別会計繰入金	5,477,791	1,000,000	4,477,791	周年事業特別会計へ
部活動等奨励費	1,500,000	1,600,000	−100,000	
夜間照明設備費	250,000	500,000	−250,000	夜間照明設備特別会計へ
会費振込手数料	1,034,250	650,000	384,250	5000件
予備費	394,959	634,000	−239,041	
計	18,627,000	15,471,000	3,156,000	

令和元（平成31）年度決算報告について

収入

（単位：円）

科　目	予算額	収入済額	増　減	摘　　要
繰越金	623,444	623,444	0	30年度より
会　費	10,000,000	8,328,000	−1,672,000	令和元年度入金 4,164件
入会金	562,000	552,800	−9,200	3学年分
予納金	1,470,800	1,462,960	−7,840	1･2･3学年分
繰入金	2,813,900	2,808,647	−5,253	名簿作成特別会計解約金
雑収入	856	689,446	210,799	預金利息、宛名シール代、寄付金、130周年事業残金
計	15,471,000	14,465,297	−1,005,703	

支出

（単位：円）

科　目	予算額	支出済額	増　減	摘　　要
事務費	280,000	376,090	−96,090	電話代(インターネット通信費含)130,687　事務用品183,340　払込手数料1,980　残高確認書2,592　郵送代46,760　職員録4,536　白堊記念館施設使用光熱水量代3,341　建物共済加入負担金14　タクシー代2,840
慶弔費	250,000	212,211	37,789	各白堊会派遣祝金、会議参加費、弔電代
旅　費	300,000	237,923	62,077	各白堊会派遣旅費
会議費	380,000	418,930	−38,930	役員会､常任幹事会､卒業年次代表者会､編集委員会
事業費	680,000	670,280	9,720	新入生入学記念品代、ウェブサイト管理運用費
総会関係費	600,000	548,905	51,095	総会資料作成代、主管年次及び総会代金等補助金、講演者謝礼、物品使用代
キャリアアップ講演会費	150,000	0	150,000	
名簿作成費	1,260,000	1,201,680	58,320	名簿作成代、卒業生データ入力費
会報刊行費	3,200,000	3,570,026	−370,026	39号印刷費、郵送費
事務局員費	1,487,000	1,515,751	−28,751	事務局員給料、退職積立金、健康診断代
国際交流費	1,500,000	0	1,500,000	
財産積立繰入金	1,000,000	500,000	500,000	
140周年事業費負担金(仮称)	1,000,000	0	1,000,000	
部活動等奨励費	1,600,000	1,415,000	185,000	
夜間照明設備費	500,000	500,000	0	夜間照明設備特別会計へ
会費振込手数料	650,000	709,876	−59,876	
予備費	634,000	0	634,000	
次年度繰越金	0	2,588,625	−2,588,625	
計	15,471,000	14,465,297	1,005,703	

令和２年度白堊同窓会役員

会長	藤尾善一	(昭和45年卒)
副会長	林　晶子	(昭和46年卒)
副会長	阿部弘一	(昭和50年卒)
副会長	高橋瑞彦	(昭和52年卒)
副会長	佐藤　有	(昭和54年卒)(校長)
監事	千葉　弘	(昭和41年卒)
監事	吉田雄一	(昭和45年卒)
監事	工藤重信	(昭和50年卒)
常任幹事長	高橋瑛至	(昭和40年卒)
常任幹事	木村みな子	(昭和45年卒)
常任幹事	森　義真	(昭和47年卒)新任
常任幹事	中野孝之助	(昭和48年卒)
常任幹事	内山篤美	(昭和49年卒)
常任幹事	藤澤和義	(昭和52年卒)
常任幹事	菊地研也	(昭和53年卒)
常任幹事	佐久山　衛	(昭和61年卒)
常任幹事	谷地舘　勝	(平成元年卒)
常任幹事	大森健一	(平成2年卒)
常任幹事	早野俊一郎	(平成13年卒)
常任幹事	駒込武志	(副校長)新任

同窓会だより

昭和45年卒の団結はピカイチ

～暗い青春と 笑って話す 小春日や～

廣田 淳（昭和45年卒）

昭和45年卒の同期は、卒業時439名である。

2年生の時、甲子園出場を果たし、選手として、応援団幹部として甲子園に行くなど、多感な青春時代の3年間の出来事は、その後の各人の人生に様々な形で残っているはずである。

卒業後の結束は、卒業直後から現在に至るまで、固く強く、その証左は枚挙にいとまがない。

① 節目ごとの同期会、イベント開催

（1）卒業10周年、〃20周年、〃30周年、〃40周年、〃45周年同期会、入学30周年、〃40周年、〃50周年同期会と周年ごとに同期会を開催し、常に100名近い同期が集っている。

（2）2002年には、入学35周年修学旅行（京都・神戸）、2005年に卒業35周年修学旅行（鎌倉）、2013年に入学45周年修学旅行（青森県青荷温泉）を実施した。

（3）2009年からは、毎年7月の岩手山登山がスタート。また、毎年、盛岡にてゴルフコンペも継続している。

十五日会

② 地区の同期会

（1）盛岡では、「十五日会」として、毎月15日に集まる同期会が1976年からスタート、2018年2月にはなんと500回を数え、これを記念して50名が集合して、お祝いした。

近年は、リタイア組が増えていることもあり、毎回、20名を超える仲間が集い、趣味、スポーツ、健康等様々な話題に花が咲いている。

（2）東京の「あずまや会」も毎月の開催を目指し奮闘している。

また、大阪、札幌、仙台と不定期であるが、集っている。

③ 4回の文集『浩然』の発行

何といっても、圧巻は文集の発行である。

岩澤新治編集長、森田彰子副編集長の尽力により、2006年文集『浩然』創刊号、2010年『浩然』第2号、2015年『浩然』第3号、2020年卒業50年記念誌『浩然』を発行した。

内容は、各自の自由テーマで、近況報告、青春の思い出、現在夢中になっていること等々これまた、幅広く各般にわたっている。

④ 逸材を輩出

こうした固い足跡を表わすように、同期生からは幾多の逸材を輩出している。

現白聖同窓会長の藤尾善一氏、盛岡市長の谷藤裕明氏、前仙台市長の奥山恵美子氏、元県議会議長の佐々木博氏を始め、各分野に多くの逸材を輩出し、まさに、我が国そして各地域の発展に絶大な貢献をしている。

岩手と宮城の県庁所在地である盛岡市と仙台市の両市長が在任していた2010年の同期会では両市長の「まちづくりトークショー」を企画、また、2015年には震災での大変な経験を交えた対談を実施するなど、中身の濃い交流を展開している。

⑤ 幹事の尽力の賜物

仲間の濃密なネットワークを支えているのは、白聖同窓会長の藤尾善一氏をはじめ、盛岡の「十五日会」名誉幹事長の木村みな子氏、そして東京「あずまや会」名誉幹事長であり、『浩然』の編集長、全学の知恵袋である岩澤新治氏である。

両名の奮闘なくしては、わが同期の結束はありえない。

卒業50周年を迎え、各人の人生がさらに円熟したものになるよう同期生の固い絆を大切にしていきたい。

同窓会だより

自粛今昔―平成改元期の自粛回顧

大森健一・照井 崇（平成2年卒）

令和2年10月に、この稿を書いています。

コロナ禍は依然として続いており、令和改元の祝賀ムードは一転、様々な「自粛」が世を覆うこととなり、やはり「自粛」で始まった平成と、奇しくも同じ空気感での幕開けとなってしまいました。

平成2年卒の我々は、2年生の1月に昭和から平成への改元を経験しました。昭和天皇崩御による改元なので、その前後には服喪のため様々な「自粛」の要請がありました。

「歌舞音曲の自粛」

数ある自粛事項の中の1つです。世間一般には高校生への影響は希薄そうなものですが、当時、応援委員だった筆者両名にとっては、少なからず影響がありました。

旧校舎惜別の会での一コマ（筆者は手前と２人目）

毎朝8時の時報とともに始まる朝練をはじめ、日々の鍛錬で「歌舞音曲」の技術を高め、魂の叫びを「歌舞音曲」に託して、選手を、全校を鼓舞する（ことを目指す）応援委員は、「歌舞音曲」の権化ともいえる一面を有します。服喪のための自粛に異存などありませんでしたが、活きのよかった高校時代のこと、2週間ばかりではありましたが、活力を持て余し、多少鬱屈していたのも事実です。

そして、自粛期間が明けた日、全校生徒に告知し「平成の歌い初め」を挙行したのです。

小雪が舞い寒風吹きすさぶ中、旧校舎屋上に集まった百有余名の同朋とともに校歌、応援歌を謳い上げました。解放感の中、日常が戻ってきたという実感と、新たな時代に進む微かな兆しを感じたことを今も鮮明に記憶しています。

このように30年前の平成の自粛には、明確な終期がありました。しかし、現下の自粛は新型感染症という目に見えない敵と戦うためであり、いつ終わりが来るとも知れません。たった3年しかない一高での生活を、出口の見えない閉塞の中で過ごさねばならない在校生の心中は、察するに余りあるものですが、多少なりとも近似の経験をした我々には、どこからか在校生たちの声が聞こえてくるような気がするのです。「心配など無用」と。

平成元年の冬の朝練風景

現況に立ち向かっているのは、在校生ばかりではありません。コロナ禍を克服しようと数多の白聖同窓生が、陽に陰に尽力されているに違いないのです。

在校生にも同窓生にも、心から、心から、エールを送ります。

ガンバレ！一高！

ガンバレ！同窓生！

在校生の経験は将来の糧として、同窓生の尽力は世の光明として、必ずや結実するものと信じます。

そしてまた、一日も早く、マスクを外し、何にはばかることなく声高らかに校歌を歌える日が来ることを祈ってやみません。

愛すべき街「盛岡」

盛岡は緑が溢れ、 大自然がすぐそこにある。 聞こえてくる音にノイズは無く、 未来を見る目はとても澄んでいる。 そんな盛岡を愛してやまない、 そしてより良い街にしたいと日々仕事に、 遊びに精を出されている盛岡一高卒業生、 医療法人佐々木皮膚科　院長　佐々木豪先生に話しをききたいと思います。

我らが先輩で「るろうに剣心」「影裏」など日本を代表する映画監督の大友監督と

クリニック写真

まずはわが母校、盛岡第一高等学校創立140周年おめでとうございます。記念すべき140周年にこのような機会を与えてくださった今号の編集担当の皆様、関係者の皆様に感謝申し上げます。

■東京に行くまでの流れを教えて下さい。

盛岡一高在学時代はまだWEBでの情報収集ができなかった頃でした。在校時に世界の「科学のトレンド」を知るためと得意な英語の長文読解力をさらに高めるために医師である父から〝New England journal of medicine〟を紹介され読んだのが医師を目指す一番のきっかけだったような気がします。医学用語が多くてずいぶん読むのに苦労しましたが(今の学生さんは簡単に日本語に翻訳されたサイトで見ることができるのが羨ましい！)、この雑誌を読み始めた頃は世界中で「麻薬患者の健康、貧困問題」が医学的に問題になり始めた頃でそんなものとは無縁の岩手の地で随分驚いたことを記憶しています。また同時に世界の医学のトレンドが「免疫学」と言う分野に集約され始めていて、将来はすべての疾患が免疫学のもとに治療を行うことが重要になってくる事をこの紙媒体を通じて知りました。「将来はアメリカで臨床医学で有名なMayo clinic で働きたい」と考え当時の免疫学でハイレベルな国内研究が行われていたところに行きたいと思うようになりました。本格的な研究を始めた東京医科歯科大学医学部　大学院時代は環境皮膚免疫学を専攻し、当時その分野のトップであった西岡教授の門下生となりました。皮膚免疫学を専攻した理由は皮膚が人間の臓器で最大にして最初の免疫学的な防御臓器だと解釈していたのが理由でした。

■東京ではどんな仕事をしていましたか？

研究医としてはアトピー性皮膚炎や接触性皮膚炎、好酸球増多症を中心とした抗サイトカイン抗体投与による疾患モデルの病態改善を研究していました。実はこの当時(20年くらい前)に研究していた分野は最近では我々の日常診療において最も優れた先端的医療、すなわち「生物学的製剤」として治療に用いられています。臨床医としては国立東京医科歯科大学医学部附属病院、東京労災病院、日通大塚病院などで勤務医をしていました。

■東京にいる時、盛岡を感じる事は？

よくありました。お茶ノ水にある東京医科歯科大学医学部附属病院は東京のど真ん中にありましたので研究棟から星はほとんど見えませんでした。しかし実験や診療に疲れて空を見上げるたびに「盛岡ならばどんなにきれいな星が見えるかな」などと言うふうに故郷を思い出すことが度々ありました。やはり「冷麺」と言う文字や「南部」「みちのく」そして冬には「本州の最低気温が薮川でした」などと言う全国ニュースを見る度によく盛岡を思い出していました(笑)。

■盛岡に帰りたいと感じた事は？

当時はSNSが存在していませんでしたから、他の大学にいる同郷のドクターや同級生とは連絡が取れずにずいぶん寂しい思いをしたことを記憶しています。最近の卒業生や私もそうですけど今はSNSを通じてタイムリーに今の盛岡を知り、同窓生と接することができて盛岡一高出身の絆をより強く感じることができるようになっていますね。在京時に盛岡に帰りたいと思うことがあるときは、当時住んでいた文京区湯島にあった居酒屋の「岩手屋」さんに仕事の帰りに寄ったり、都内の百貨店で時々行われていた「岩手物産展」に行くのが楽しみでした。

■盛岡に帰るきっかけ

東京医科歯科大学皮膚科学講座のボスから紹介されたアメリカ留学の準備をしていた際に、盛岡で開業医をしていた父が体調を崩し、急遽実家である盛岡のクリニックを継承することになりました。このときは30代前半で研究医としても臨床医としても本当に青天の霹靂でした。当時、父が盛岡で診察していた患者さんの数は東京での患者さんの数の数倍以上であり盛岡に帰ってきたときに本当にその患者さんの数に驚いたのが第一印象でした。高校の頃から夢見ていたアメリカでの研究留学やMayo clinicへの就職ができなかったのは残念でしたが、生まれ育った盛岡と言う場所で盛岡の人、岩手の人、東北の人の病を治すという立場を授かったという事は医師として最高の幸せです。

■盛岡での仕事内容はどんな感じですか?

盛岡では市内の高松にある医療法人佐々木皮膚科の院長として皮膚科診療に従事しています。

■盛岡のお気に入りの場所

たくさんありすぎて困ります。中津川に岩手山、北上川の見えるところ、トレイニングコースの高松の池や鞍掛山、小岩井農場など盛岡や周辺の全てがお気に入りです。神子田朝市や材木町よ市のおばちゃんの「利他主義(自己の利益よりも他者の利益を優先する考え方)」が日常にある光景は盛岡らしくて好きな場所です。

■盛岡に住んで良かった思う事

1つめは都市がコンパクトであること。そして2つめは都市全体が良い香りに包まれていると言う事ですね。診療や講演で疲労困憊した際、趣味であるキャンプや登山など自然に触れられる場所が街中から30～40分で行けるという事は盛岡がコンパクトであるがゆえになせる業ですね。例えば土曜日の午前中に診療が終わり、その後午後は皮膚科講演の準備をして6時過ぎにはナイトキャンプをするために30分ぐらいで鞍掛山の相の沢キャンプ場に到着できるとかいうのが盛岡の特徴でしょう。

盛岡と東京の暮らしに情報量の差というのを感じることもかつてはありました。しかし最近はいろいろなやりとりをWEBで行うことに抵抗のない世の中に変わったこともあり今はそういった差を感じませんね。11月には医師向けのWEB講演の収録を盛岡でやりましたし、12月には美容家のIKKOさんとの漢方に関する講演とトークライブを盛岡と東京をつなげてリモートでやりましたし、新型コロナを境にして益々WEBで事足りるようになり東京と盛岡の地域的な情報のやりとりに関してはメリットやデメリットはさほど感じなくなりましたね。

■ラジオやスポーツという サブカルチャーとの付き合い方は？

私が登山、フットサル、海のスポーツをするということもありスポーツ関係の方々との交流は多くあります。プロバスケットボールチームの岩手ビッグブルズの水野社長は盛岡一高の後輩ですし、プロサッカーチームのグルージャ盛岡の前社長の宮野君も盛岡一高の後輩です。彼らの持っている盛岡一高出身者の情熱やハートの強さは仕事の分野は違えどとても勉強になります。上級生が怖かったあの応援歌練習を経験しているという若き頃の共通の心象風景があるので、今はお互いに優しく付き合っています(笑)。また盛岡に帰ってきてすぐに色々なご縁でラジオ盛岡の番組のパーソナリティーをさせていただいています。今の番組は「モリオカ大人文化学院」と言う番組で毎週金曜日の8時から76.9メガヘルツで放送しています。スマホではリッスンラジオと言うアプリで聴くことができるので私に内緒でこっそり聞いてみてください(笑)。第3週目は卒業生である石井スポーツの鈴木真吾君が一緒に出演してくれています。この番組は様々な盛岡に関する大人をゲストに招いて「ちょうどいい街、盛岡」の大人が楽しく過ごせるようなアイデアを提供しています。また盛岡芸妓後援会を通じて伝統ある「盛岡芸妓文化」の継承を応援しています。一昨年、盛岡一高の学生がオープニングアクトを務めた「いしがきミュージックフェス」や「盛岡シティマラソン」も参加して「ちょうどいい街」盛岡を楽しんでいます。

あとはなんといっても昨年は我らが大先輩の大友啓史監督の盛岡を舞台にした映画「影裏」の協賛スポンサーもしました。この映画は盛岡の美しさがとても出ている映画ですので、ぜひご覧ください。

■現在の東京との関わり方

御茶ノ水にある国立東京医科歯科大学皮膚科教室の臨床准教授や同窓会北日本支部評議員を併任しています。

■仕事に対する流儀

様々なトレンドの「先端」を意識しながらも「流行」に乗らないようにしています(笑)。流行の先には「進化」だけではなく「急激な衰退」も隣あわせにあるので、新しい事をするならば古い事を意識して仕事をするよう心がけています。また20代や30代の頃はあえて同世代の人とつるむこともしませんでした。よく若手だけでやるイベントみたいなものも周りでやっていましたが「世代の枠に守られた内輪ウケ」みたいなものなので、なるべく自分より年上の人と話す場に参加するようにしました。今も昔も人は同じ哺乳類ヒト科ですので悩むポイントは大体共通な気がします。ですから新しいことを始める時や、今やっていることに壁を感じた時にはシンプルに時空を超えて孔子や孫子や戦国時代の武将の方々の言葉などにも耳を傾けるように努めています(笑)。

■現役盛岡一高生に一言

2020年を席巻した新型コロナウィルスというのはこれまでの社会の仕組みを一変させるものでした。そして様々な情報があらゆるメディアやネットを通じて垂れ流され様々な情報が跳梁跋扈(ちょうりょうばっこ)した印象があります。校訓にもある「忠實自彊」の精神のもと盛岡らしい「利他主義」を忘れずに、様々な世代の人と交流しながら「己の慧眼」を全集中で磨いて頂きたいですね。

様々な価値観があって現在があり、社会は急速に変わっていきます。何かを伝える為の発信方法がネットに変わり、今はどこに住んでいても世界を変えれる時代です。大学や社会人で得たスキルを岩手で使ってみてはいかがですか？

応援委員とＯＢ（平成12年卒）座談会

コロナ禍と伝統行事

新型コロナウイルスの影響下、白聖健児たちはどのように活動をしていたのでしょうか。「コロナ禍と伝統行事」と題して、白聖の伝統行事に深く関わる応援委員の生徒3名と、平成12年卒ＯＢの3名が座談会形式でインタビューを行いました。

自己紹介

髙橋陽　令和2年度團長の髙橋です。この半年は、※團としてやりたいことができない半年間でした。座談会を通じて少しでも現状を諸先輩方にお伝えできれば幸いです（※團＝現在の応援委員会の通称）。

原科芽衣　女子團としては3代目となる原科です。今年はコロナの影響で行事がほとんどできませんでした。その分、活動できない時間は応援の在り方を深く考える時間となりました。普通にできていたことがありがたかったのだな、と強く感じた半年間でした。

吉田大樹　令和3年度応援團長の吉田です。コロナの影響がまだまだ大きく、いろいろと模索している段階なので、3年生とＯＢの先輩方とこの場で話し合って今後の活動につなげたいと思います。

角原久夫　放射線科の医師として岩手県内の病院に勤めています角原です。コロナの影響下で社会的にいろいろな制約がかかる中で、発声が伴う応援歌指導をするのは皆さんかなり大変なことだったと思います。

熊谷松亮　地元で都市ガスを供給する会社で働いております熊谷です。今日は同じ地元で働いている社会人として、また、応援委員ではなかった者としてお話を伺いたいと思います。

吉田伸　地元の企業で働いております吉田です。応援の指導で皆さんとお会いしたことがありますが、元応援委員です。本日はコロナ禍の中で現役の皆さんがどのように過ごされたか応援と行事を中心に伺いたいと思います。

本年3月から4月の状況について「対面式・全体での応援歌練習中止」

髙橋　3月は春の応援歌練習に向けて※指導有志志望者に指導をしたかったのですが、日に日にコロナの影響が強くなり、校舎への立ち入りも禁止となり、自宅待機となってしまいました。（※指導有志＝2年生14名＝1年生7クラスに男女1名ずつで配置される応援委員会の任意の下部組織。応援歌や一高の伝統などをかみ砕いて新入生に伝える役割）。合格発表のあたりから新入生への応援指導ができなくなるかもしれないと感じるようになり、そこから春練習の指導の想定をどんどん変えていきました。応援歌練習全てなしになる可能性もよぎりましたし、体育館と白聖ホールに半分ずつ生徒を分けて指導することはできるだろうかとか、ぎりぎりまで模索しましたが、やり方が決まりませんでした。

原科　先生方に團の要望を提案したかったのですが、休校期間があったことなどによりコロナにかからないように安全にやる方法がわからず、なかなか答えがでませんでした。

吉田（伸）　応援歌練習がやれない場合はどうするつもりでしたか。

髙橋　プロジェクタとスクリーンを活用してリモートでやったらどうか?と團の皆に相談してみましたが「バンカラらしくないから却下」となりました。しかし、バンカラらしくないことをしてでも、伝える努力をしないと、応援も文化も伝わっていかない、という相当な危機感がありました。

吉田（伸）　残せるものだけでも残していこうという風に方針を決めていくしかなかったということですね。4月に入って緊急事態宣言など社会的にコロナの影響もひどくなっていったわけですが、入学式では応援は見せたのですか。我々の頃は入学式には応援委員が来て校歌・エールを実演する一幕がありましたが。

髙橋　コロナの影響で新入生のみの入学式となりました。ただ、コロナに配慮した上で團が校歌を披露することになりまして、密を作らないように團長と太鼓の2名で臨みました。團長がマスクするのはかっこ悪い、という声が團の内部からでたので、手拭いをマスク代わりに巻こうかと思いましたが、そんなことよりも、コロナが流行したら応援が出来なくなるかもしれないので、指示通りマスクをつけて、私が一人で旗を振りながら太鼓に合わせて校歌を通しで独唱しました。本来の迫力や感覚も全然違う応援の姿しか見せられない悔しさがありましたが、やれただけでもよかったのかな、と今は思っております。先生方には感謝をしています。

吉田（伸）　私も今年の野球応援はＯＢとして声を出しに行くつもりだったのですが、マスクどころか、家族以外は球場に入れなくなっていてとても残念でした。やれただけでもよかったという気持ちはよくわかります。では、入学式の後に、応援歌を全て通しで聞かせる対面式はどのような雰囲気でしたか。そもそも対面式はできたのでしょうか。いまでも正座はさせるのですか。

髙橋　残念ながら対面式はコロナの影響でそれどころではない、という雰囲気で出来ませんでした。全ての応援歌を聴かせることができる大事な行事なのですが。正座についてはもうだいぶ前の代でしなくなっていまして現在は、安座（体育座り）です。

角原　対面式や入学式の辺りは※緊急事態宣言が関東に出された頃ですね（※4月7日）。その頃は集会の基準も曖昧でどうしたら安全なのかも分からない頃なので対面式が中止になったのは仕方がなかったかもしれないですね。

吉田（伸）　対面式もなくて新入生に応援委員の存在感を示せないまま、また、コロナの影響も弱まらないまま、春の応援練習を迎えたわけですね。

髙橋　新入生を体育館に集めて応援歌練習ができないということは3月のうちに決まりまして、春の応援練習は4日間だけ各教室においてコロナ対策に配慮しながら行いました。体育館での指導はありませんでした。

吉田（大）　いずれ新入生にどこかで応援歌を教えなくてはならないという危機感があって、体育館以外の選択肢として、屋外も考えましたが、時間や音量などの制約が大きく教室指導になりました。新入生に発声させない、話すのは上級生が小声で話す、返事もさせない、など飛沫での感染予防を意識した上で指導することになりました。

新型コロナウィルスに配慮した新入生への応援指導

吉田（伸）　全体の応援歌練習が全くなくなったということですね。指導には相当の工夫が強いられたと思いますが実際にどのように工夫されましたか。

原科　4月頃はコロナで社会全体も先行きが不透明な情勢になっていて、新入生の中にはナーバスになっている生徒もいる、と先生方から伺いました。ですので、先生方との話し合いを行い、新入生に怒鳴ったり、きつい口調の説教はしないことになりました。また、コロナの予防の観点から、上級生が模範的な応援を見せること、小さな声を出すのは良いが、1年生に大声を出させる指導はしないことになりました。上級生から話しかけるのは良いのですが新入生に返事を促したり歌わせたりしないことになりました。飛沫での感染予防のためです。

吉田（大）　4月でしたので外はまだ寒かったのですが、教室の窓を開けてよく換気をした状態で指導すること、マスクをつけて小声で指導をすること、など感染予防にはかなり苦労しました。結局、密を作らないように体育館には一度も新入生を集めませんでした。だいぶ違和感のあった指導の例としては、黒板を使って返事の仕方を指導した、ということがありました。

黒板に「いいか、お前ら、わかったか」と書いて、「この途切れる句点のタイミングでイスって返事をしてくれ」と指導しました。リアクションがないのでこっちが不安になるような雰囲気でしたね。

髙橋　3年生の出番としては※あいさつ回りをやりましたが、入って、小さな声で一言話して終わりです。コロナでナーバスになっている生徒がいるので威圧感を与えないように電気も消しませんでした（※あいさつ回り＝教室の電気がいきなり消されて、応援委員が新入生の教室を急襲して教室内を徘徊しながら説教をする指導。現在は声

のみ。昔は机を竹刀でバンバン叩いて回って1年生の弁当を飛ばしてしまうくらい気合いの入った先輩もいた）。

吉田（伸）　この時期に他に感じていたことなどはありましたか？

吉田（大）　私が最も恐れていたのは、コロナ禍に乗じて以前から応援歌練習自体に異を唱える意見に学校全体が飲み込まれてしまうことでした。バンカラ自体がなくなってしまうのが怖い、と感じていました。この後でも触れますが、結果的にそうはならなくて今では安心しています。

運動会・街頭先発隊・猛者踊り中止 反撃開始！ マイナスをプラスに出来ないか！

吉田（伸）　運動会や※猛者踊りはどうなりましか（※猛者踊り＝旧土人踊り。名称変更して現在に至る）。

高橋　実行委員会と團と先生で運動会の半月くらい前まではやるつもりで色々と話してはいたのですが、全て中止になってしまいました。白聖パレード（街頭先発隊）は街に出て練り歩きますが、踊るポイントで密集が出来てしまうのでできないな、となりました。これが一番楽しいのですが、なくなってしまったのはとても残念でした。※M門の作成もしなかったので本当に何もなくなりました（※M門＝運動会で使用する大きなアーチ。昭和の時代は杉の葉で、平成は段ボールを千切ってモザイク模様の図柄を作って門にした。1年生が応援歌を歌いながらこの作業をすることで連帯感や一高生としての自覚を持つようになる）。

熊谷　盛岡の街の風物詩みたいな形で、市民にも広く知られているだけに白聖パレードがなくなったのは残念ですね。去年も県庁前で楽しそうに踊っている姿をニュースで見ていました。

高橋　猛者踊りについては全く伝える場がなくなってしまったので、土人踊りと呼んだ時代からの今までの歴史についてパワーポイントにまとめて新入生に説明しました。そうやって伝えるしかなかった、というのが正直なところです。

吉田（伸）　我々の時代は先輩の歌や踊りをまさに見よう見まねで、その場で覚えるしかない時代でした。パワーポイントで説明とは隔世の感がありますね。

高橋　しかしコロナ禍で出来ないこともありましたがそれを逆手に取って出来たこともあります。

　応援歌練習もそうですが実練習ができない代わりに「応援について考える時間」「指導の言葉について考える時間」を長くとれました。これはコロナの副産物です。いつもとは桁違いの時間をかけて指導の言葉を考えることができたのはよいことでした。マイナスの中から何とかプラスを得ようと生まれたものです。

夏の応援歌練習

吉田（伸）　夏の応援歌練習はどうやりましたか。野球応援はなくなってしまったわけですけど。

高橋　夏はかなり特殊な感じでやりました。ほぼ対面式のような形で聞かせる方式です。マスクしてほとんど声も出さずに、やり直しもないし、歌い出したら止めないスタイルです。返事も説教もせずに淡々とこなす感じがありました。口調も柔らかくしましたし。2日目は屋外で、ソーシャルディスタンスを守るために、2メートル距離をはかって白線をひいて、マスクを着用のうえ、校庭で1時間だけ大声でやりました。

今後の活動についての所感（OB）

角原　屋外での練習は密閉を避けられる点でよい考えですね。生徒側は学校側に制限をかけられた、と感じたこともあったかもしれないですけど、情報が不十分な時期は感染予防が優先されるのは仕方がなかったことなのだと思います。現在は、この感染症についても様々な知見、データが集まってきています。全部の活動を禁止するのではなく科学的な根拠をもって、この活動はやれる、やれない、と基準を決めていく時期に入ってきていると思います。これからは、生徒側も活動ができるかどうかを、科学的な根拠をもって先生方と協議し、要望を出していくことが大切だと思います。

熊谷　進学を控えている生徒諸君を預かっている先生方の立場を考えると伝統行事を強行することよりも、感染予防に舵を切るのは仕方がないことだとも思います。後輩諸君の伝統行事への情熱を感じる一方で、思い切った動きを取れない学校側の苦悩や苦労も感じました。

吉田（伸）　自分が新入生たちに一番伝えていってほしい部分は、気持ちの部分。コロナとは関係なく、もしも現行の応援団が斜陽になってバンカラの格好がなくなっても、先輩方から伝わってきた気持ちの部分だけは残していってほしいと思いました。

これからの応援について（現役生）

高橋　世の中に今残っていることは必ず、1回目があります。やってみた結果、よかったから残っているのだと思います。形はどうなってもそこに「芯があるかどうか」、戻ってこられる芯があるかどうかが大事なのだと思います。形は自由でいいと思います。一高のバンカラ応援の魅力は、大きく2つあると思います。第1はみんなで一体となって応援できること。第2にブラバンよりも試合の攻防に合わせて応援できる、独自性や自由度を兼ね備えた臨機応変さだと思います。この自由さ、臨機応変さが実用性のある技術的な応援として今まで残ってきた芯だと思います。この臨機応変さは実用的で使えるので次の代にも必ず伝わっていくと思います。それと、気持ちの部分ですが、大人になって集まった時、応援歌練習したなって思い返せることがすごくいいなって思っています。卒業したら、何世代もの卒業生と、同じ応援歌を歌って、伝統の素晴らしさを感じたいです。

原科　私は、応援活動はみんなが集まってくる心の拠り所だと思っています。応援は拠り所をつくる活動のようなものです。海外に行った時、日本食を食べてすごく感動したことがありました。それと同じようにアウェイな場所に行っても一高の校歌を聴くと安心できるというか。全校のみんなにとってもバンカラ応援が心の拠り所であってほしい。それと、後輩に伝えたいことは、応援は男子と女子が一緒になってつくるものだし、半分は女子になっています。これからも応援委員に女子がいてもおかしくはない、と思います。私の後にも女子応援委員は続いてほしいです。

吉田（大）　今日、3年生や先輩方に色々なお話しを伺えてありがとうございました。いま自分はとても難しい立場に置かれていると思いますがどうやってバンカラ応援を伝えていくか、バンカラの芯を考えていきたいです。今をチャンスに変えていけたらと思います。しかし、来年の猛者踊り、野球応援、春練習、運動会、新人戦の応援など、何も経験できなかった1年生だけでは当然指導はできない、と思っています。指導有志が14人集まってくれるかも心配しているところです。自分たちが受けていない指導はできないでしょうから何かしら再度指導する機会を与えなくてはならないと思っています。来年も春練習がなくなってしまったら完全に伝統が途切れるような気がします。教えることができる最後の世代にならないように頭を使っていきたいと思います。

角原　ワクチンや治療薬の臨床試験が行われてはいますが、その効果が実証されて、皆さんの手元に届くのが具体的にいつなのか、と考えると、来年の今頃も間に合っていないという想定はあり得ると思います。もしかしたら大声を出すことができないような状況が来年も続いているかもしれません。この状況下で来年の方針を決めていくのは本当に難しいことですがコロナに負けないで欲しい。

吉田（伸）　今日は皆さんの苦労と同時に熱い思いを感じることができました。盛岡一高には3万人の卒業生がいて、現役の皆さんのことを学校の外から応援しています。頑張れ！白聖健児諸君！

コロナ禍と学校生活

本校では新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、毎朝の検温、「３密」の回避、手洗い・うがい・咳エチケットの励行、室内の換気やソーシャルディスタンスの確保など、基本的な対策の実施に努めてきました。これまでのところ、実質的な休校措置は３月２日から22日までと、４月30日、５月１日のみでした。感染症対策上、必要に応じて行事の中止や実施形態の変更を行っていますが、授業を中心とした生徒の学習活動は、前記の感染症対策を実行しながら、ほぼ通常どおりに戻りつつあります。

3月	1日　卒業式→卒業生・保護者・教職員のみで、在校生は参列せず 18・19日　春季講習→中止 23日　終業式・離任式→中止 各HR、放送にて年度末校長講話を実施 ※「白聖の翼」→中止 ※土曜日の校舎開放→中止 ※部活動→停止（～23日）
4月	1日　新入生オリエンテーション→中止 7日　新任式・始業式→各HR、放送にて実施 8日　入学式 9日　対面式→中止 10～16日　応援歌練習→中止 30日　休校 ※臨時休業（～6日）
5月	1日　休校 13日　運動会→中止 ※高総体→中止
6月	17～19日　スポーツ祭→9月末に延期 30日　夏の応援歌練習→1年生のみ、第一体育館で実施
7月	1日　夏の応援歌練習→全学年、校庭で実施 2～3日　理数科2年つくば研修→延期 ※夏の高校野球→中止、応援活動なし
8月	3日（中学生対象）学校説明会→中止 29日　白聖祭→1日のみ開催、外部非公開、時差登校実施（1年＝午前、2年＝午後、3年＝終日）
9月	28～30日　スポーツ祭→「3密」回避のため、他クラスの観戦・応援なし
10月	10日　創立140周年記念式典・シンポジウム→2～3年生＝盛岡市民文化ホール、1年生＝各HR、リモートで参加

自彊寮 閉寮
寄宿舎OBの思い

約125年の歴史を持つ本校の寄宿舎「自彊寮」が、今年3月閉寮しました。自彊寮OBの思いを寄せてもらいました。

平成30年（2018年）11月開催の白堊自彊寮OB会において、学校側から「自彊寮を2020年3月閉寮で検討している」との説明を受けて以降、OB会が学校側とも協議を重ねた。閉寮に係る記念事業の大枠や実施主体について取りまとめ、平成31年1月開催の有志による自彊寮OB有志準備会議での了承を踏まえ、令和元年6月8日、自彊寮顕彰事業推進委員会が設置されるとともに記念事業の実施が決定された。

閉寮決定を踏まえ、記念誌に掲載する「自彊寮への思い」等についてはOB15名から寄稿があった。この稿は紙面制約もあり恐縮ではあるが、寄稿者数名の寄稿文からその一部を抜粋することにより「OBの寮の思い出、寮への思い」等を紹介したい。なお、12月完成予定の記念誌には全寄稿文を掲載することとしているので、刊行の暁には御一読いただければ幸いである。

自彊寮閉寮記念
「自彊寮」顕彰事業推進委員会
記念誌・記録部会
佐藤　守（昭和48年卒）

▶ 内丸時代（明治29年～）
初代寄宿舎。
前列左端には宮沢賢治。

▲上田時代（大正7年～）
看板は「盛岡中学校」の表示。

中村 昌平（昭和22年卒）

入舎1年時、食堂に2つの額があり
「和而不流」、「気節凌霜」でした。
これが説教の元になり、伝統であり、鍛えられました。
1年の主なことは、説教、寮歌練習、試胆会、
場所は、火葬場、校舎のトイレ、神庭山1周、
この神庭山怖かったです。
3年、4年は動員で鉱山、工場です。
5年の時、アメリカ兵侵入事件が2件ありました。
コルト拳銃を向けられ怖かったです。…

松橋 暉男（昭和25年卒）

戦争末期で敵国語禁止という中にあって
自彊寮ではベースボールをはじめ、
…ファイト、ドンマイと横文字言葉で大声を上げていた。
カルチャーショックとして忘れられないのは、
…夕食の際、横文字で綺麗なレコードをかけたら
上級生の根本さんが飛んできて〝駄目駄目〟と云って
別のレコードに替えられたことがあった。その時の舎監で
食事をしていたのが水戸出身の超右翼教頭であった。
根本さんから「このレコードはジャズと云うのでアメリカの音楽だから
止めたのだ」と云われ…た事が戦後になってジャズを聴くとき
いつも思い出される。反面教師的舎監、何の意味なく
ビンタを喰らわせる上級生によって寮生活で身についた
反骨精神と忠実自彊の生き方は
老耄(おいぼ)れても変わらない。

村上　寛（昭和44年卒）

希望に燃えて入学した私を待っていたものは応援歌と
寮歌の特訓、そして「説教」というこれまで経験した
こともない世界だった。身に覚えのない罪を声高に叱責され
正座を続ける膝が激痛から痺れに変化していく夜の何と長かったことか。
伝統というものは個人の力ではどうにも抗えないもののようで、
やがて私自身が下級生の「指導」に精を出したことも懐かしい。
寮という集団生活でいろいろと経験してきたが、「仲間との
切磋琢磨の中にあってこそ自分で決める力も育つ」
ということもあったような。「和して流れず」。

後藤（佐々木）剛（昭和60年卒）

（昭和57年4月6日）「1年生、制服制帽で9室に来い。」
というドスの利いた声で呼ばれる。自彊寮恒例の説教が始まる。
「おめえらはなあ、ちょっとだるいんだよ。」
「寮生活というのはなあ～」思わず体が小さくなる思いがした。
でも、これは新入寮生にとって絶対に不可避なことである。
80年の伝統のある自彊寮を。ただの家ではないのだ。
（4月9日）応援歌練習と〝わりかん〟にて2時間。
全く勉強なんか十分できるわけがない。それに来週からは応援歌練習で、
寮でも1時間半、夜にやる。…あれから、30年以上が過ぎた。
今でも忘れることができないのは、人間は誰ひとりとして
同じ人はいない、皆それぞれであること。お互いを尊重しないと
何事もうまく行かないこと。寮生活3年間で体得したことである。

小沼 碩士（平成30年卒）

自彊寮の閉寮が決まったのは、私たちの代が
卒業して間もなくでした。その知らせはすぐに
私たちの間でも広まりましたが、不思議と悲しいという
感情は沸いてきませんでした。・・・。自彊寮という環境を
経験した私たちの価値観は、世間から見ればイレギュラーな
ものなのかもしれません。私はそのような価値観を
持てたことを誇っています。…勉強や出世より、
ずっと大事なことがそこにあると思います。

緑が丘の自彊寮 ▶
（昭和37～令和2年）

自彊寮の歴史

明治13(1880)年5月23日	公立三学校(師範学校、医学校、中学校)生徒寄宿舎創設
明治15(1882)年7月28日	生徒寄宿舎火災により消失
明治16(1883)年9月1日	県立三学校寄宿舎新築落成式
明治18(1885)年9月29日	本校寄宿舎消滅(土地・建物等財産全てが師範学校所有となった)
～明治18(1885)年9月～明治29(1896)年6月	本校の寄宿舎不存在期間～
～明治20年代(明治33(1900)年春の閉塾まで)	私塾「猪川塾」の存在～
明治29(1896)年6月13日	本校単独寄宿舎(内丸)新築《※開舎11/21》／“自彊寮”の起源
明治42(1909)年4月12日	宮沢賢治入舎
大正7(1918)年1月11日	寄宿舎(上田)竣工・移転
大正14(1925)年3月3日	寄宿舎一部火災焼失
大正15(1926)年1月16日	寄宿舎復旧工事完了　使用開始
昭和12(1937)年3月6日	石黒知事、“自彊寮”看板の揮毫
昭和37(1962)年4月28日	寄宿舎(緑が丘)新築・落成
平成7(1995)年10月21日	寄宿舎「自彊寮」創設百周年記念式典挙行
令和2(2020)年3月31日	自彊寮閉寮

自彊寮

本校創立直後の明治13年（1880年）5月23日、旧公立岩手医学校付属病院の建物が師範学校に引き継がれ、師範学校と中学校の寄宿舎として開設された。本校の寄宿舎としては、この合同寄宿舎が嚆矢である。合同寄宿舎は、焼失期間もあったが師範学校専用となる明治20年まで存続した。本校としては同年以降、単独寄宿舎として新たに設置・開舎される明治29年（1896年）11月21日まで寄宿舎が存在しなかったことになる。なお、この間、私設寄宿舎とでも呼ぶべき私塾（猪川塾）があり、明治33年春に閉塾するまでの明治20年代は、本校寄宿舎の代わりをつとめたと言ってもよい。

即ち、本校寄宿舎「自彊寮」が閉寮となった令和2年（2020年）3月31日現在における寄宿舎の歴史は、合同寄宿舎設置からは約141年（内、約10年間の寄宿舎不存在期間がある）であり、単独寄宿舎としては約125年である。

また、寄宿舎は開設当初、名称は無く、本校「白堊城」に対し“黒壁城”や“黒門城”との俗称があったが、“自彊寮”という名称を冠した時期は不明である。

岩手県立盛岡第一高等学校　2011−2020史

◆東日本大震災と復興支援（2011年）

本校は、宮古高校のパートナー校としての支援活動、義援金募金活動などを行った。また、同窓会では寄付を募り「震災復興支援白堊同窓会特別会計（震災白堊基金）」を設立し、被災生徒の修学資金補助、沿岸地区の被災した高校への活動補助等の事業を行った。

東日本大震災と復興支援

◆8学級から7学級へ（2011年から順次、2013年完成）
◆〈55分6校時〉から〈50分7校時〉授業へ（2012年）
◆白堊ホールにエアコン設置（2012年）
◆女子應援委員誕生（2017年）

女子應援委員誕生

◆グラウンド夜間照明LED化（2019年）

グラウンド夜間照明LED化

◆自彊寮閉寮（2020年3月）

入寮者の減少と建物の老朽化等により124年の歴史に幕を下ろした。

自彊寮閉寮

◆研修旅行

3コース（関西・九州・沖縄）選択が2016で終了、2017から広島・関西コースに一本化。
※2012にはノロウイルス集団感染（関西コース）と地震による交通機関の乱れの影響（全コース）など大変な混乱があった。

◆新型コロナウィルスにより多くの活動が中止や縮小を余儀なくされている。（2020年）

◆ SGH〈スーパーグローバルハイスクール〉（2015年−2019年）

文部科学省から指定を受け5年間事業を行った。SG課題研究では、ローカルな視座からグローバル課題を見据え、解決法を探り、提案する。フィールドワークを行い、外部の指導も受けながら研究を重ね、プレゼンテーションと英語による発表を実施した。またSG海外フィールドワークとして、ボストンに3回、台湾に2回の生徒派遣を行った。これらの成果は2020（R2）年度から「総合的な探究の時間（M探）」に引き継がれている。

ボストン

台湾

部活動の活躍

◆北東北インターハイ（2011年）
◆いわて国体（2016年）

陸上　続く全国上位入賞に沸く

荒川沙絵

佐々木天

2013年（平成25年）
【全国高等学校総合体育大会】
100mH……荒川沙絵　２位
【国民体育大会】
少年女子Ｂ200m…川村知巳　優勝

2014年（平成26年）
【全国高等学校総合体育大会】
女子 5000mW……熊谷菜美　７位

2015年（平成27年）
【全国高等学校総合体育大会】
女子総合…７位　トラック…６位
200m……川村知巳　優勝
100mH……佐々木天　２位

2017年（平成29年）
【国民体育大会】
少年男子Ｂ3000m……佐々木墨　３位
少年女子Ｂ走幅跳……山中愛仁果　８位

川村知巳

登山女子

2度のインターハイ優勝

登山部女子はインターハイで2013年から2019年まで2度の優勝と数々の上位入賞を果たしている。

2015年優勝

【全国高等学校総合体育大会登山大会】
2013年（平成25年）……　７位
2014年（平成26年）……　５位
2015年（平成27年）……　優勝
2016年（平成28年）……　３位
2017年（平成29年）……　優勝
2018年（平成30年）……　７位
2019年（令和元年）……　３位

2017年優勝

【国民体育大会】
2017年（平成29年）
少年女子ボルダリング競技…岩手少年女子 優勝　田中里旺 出場
少年女子リード競技……岩手少年女子２位　田中里旺 出場

水泳

【全国高等学校総合体育大会水泳競技大会】
2014年（平成26年）
50m自由形…向中野元気　５位入賞

【全国ＪＯＣ夏季水泳競技大会】
2016年（平成28年）
100mバタフライ……一戸元喜　８位

向中野元気

弓道

【全国高等学校弓道選抜大会】
2013年（平成25年）
男子個人……佐藤伶音　２位

ハンドボール

【国民体育大会】
2013年（平成25年）
岩手少年男子……優勝
藤原竜郎 出場

囲碁将棋

【全国高文連新人大会】
2011年（平成23年）
女子個人戦
……小山田友希　３位

【全国高等学校総合文化祭将棋部門】
2016年（平成28年）
女子団体……２位

2016年女子団体

書道

【全国高等学校総合文化祭書道部門】
2016年（平成28年）
奨励賞……佐々木彩音

生物

【全国高等学校総合文化祭自然科学部門】
2018年（平成30年）
ポスター（パネル）発表
奨励賞
「河川源流部の生物相及び環境評価法」

吹奏楽

【全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト高校生部門】
2014年（平成26年）
マリンバ……熊谷伊織 優秀賞

放送

【全国高等学校総合文化祭放送部門】
2014年（平成26年）
ビデオメッセージ部門……優秀賞「創り、感じて」
2016年（平成28年）
ビデオメッセージ部門……優秀賞「歩く」

【ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト全国大会】
2016年（平成28年）
アナウンス部門
……照井渚彩　２位

照井渚彩

写真提供・岩手日報社

東北大会・全国高総文祭
出場おめでとう！

書道部

高知ウェブ総文に参加して

3年5組　田村　水

今年はウェブで実施となった全国高等学校総合文化祭高知大会に参加しました。出品した作品は、独特のうねりや震えを自然に再現できるように意識し、字の持つ迫力を出すよう心がけ集中して楽しく書くことができました。ウェブ総文には高知特産の和紙や鳴子に書く交流作品も出品しました。高知県で全国の高校生の皆さんと直接会うことができなかったのは少し残念ですが、応援してくださった方々、こうち総文の開催に尽力してくださった方々にとても感謝しています。全国の作品から学ぶ貴重な機会になりました。

生物部

第44回全国高等学校総合文化祭（WEB SOUBUN）に参加して

2年7組　高橋　大輝

今年は、2020こうち総文に参加予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により論文審査だけのWEB SOUBUNになりました。本校生物部からは、ポスター発表の「温泉が流入する河川上流部の底生動物による環境評価法」、研究発表の「蘚類群落における動物相の環境指標としての有効性」の2つの研究で参加しました。どちらも足を使い多くのサンプルを集め、データの考察に苦労しながらも作り上げた研究だけに、全国の場で発表できないのは非常に残念でしたが「来年こそは！」と新たな研究に取り組んでいます。

軽音楽部

We Will Rock You

3年4組　大庭　龍之介

どこまでも果てしなく続く道を、これからの私達の人生になぞらえてこの曲を作りました。どんな苦難に遭っても正面から立ち向かい壁を乗り越えていこうという内容の歌詞です。シンプルなクラシックロックスタイルの曲に想いを乗せて演奏しています。コロナウイルス禍で大変な中、Web開催という新しい形式の全国高総文祭に参加でき、関係者の方々に感謝いたします。私達は曲のメッセージ性を保ちつつ想像の膨らむ英語の歌詞作りを心がけました。この曲を聴いて少しでも元気になってくれた人がいたら嬉しいです。

YouTubeで
ライブの様子を
配信中！

放送委員会

WEB SOUBUN 2020に参加して

3年1組　佐藤　春菜

今年はコロナウイルスの影響で高知での発表ではなくWeb上での作品審査となりましたが、全国大会で発表の機会があることに嬉しさを感じました。時間が制限され、取材や作品制作で例年通りにいかないこともありました。それでも、作品を作りたいという強い気持ちを持ちながら制作しました。そして、オーディオピクチャー部門では審査員特別賞をいただくことができました。出場するにあたってご協力いただいた方々に本当に感謝しています。

囲碁将棋部

東北大会に出場して

2年5組　山﨑　裕哉

私は11月14日に盛岡で行われた東北地区高校囲碁選手権大会に出場してきました。岩手県代表メンバーの一員として他県と団体戦で対戦しました。結果は個人としても団体としても2勝3敗で4位でした。この大会では私より棋力の高い人が多く、良い結果を残す事は出来ませんでしたが、次の大会に向けて良い経験となりました。今回、共に戦った仲間も高総文祭ではライバルとなり、厳しい戦いになると思いますが、全国大会出場を目標に棋力向上を目指していきたいと思います。

陸上競技部

東北新人大会に出場して

1年7組　多田　愛佳

東北新人大会に陸上競技部から2名が出場し、久保田が砲丸投で第5位、私が三段跳で第8位という結果でした。今年はコロナ下のため、多くの大会が中止となり、三段跳は2大会しか出場できずとても不安な状態でしたが、藤井先生のご指導により、大会では自己新を出せました。来年はインターハイ出場を目標に、冬期練習に励み、精進していきます。

最後になりましたが、応援してくださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。

水泳部

東北大会に出場して

2年1組　菊池　純晟

私たち水泳部は、第28回東北高等学校新人水泳競技大会に出場しました。冬が近づくにつれ校舎内プールの水温は厳しさを増し、理想的な練習はなかなか積めず、不安の中のレースとなりました。しかし、複数の選手がベストタイムを叩き出し、リレー競技においても好順位をマークするなど、非常に有意義な大会となりました。

白堊同窓会の皆様、顧問の先生など、応援してくださった全ての方々に、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました